

# 無 手 間

Volunteering

「無手間」それは地域の人々が行う共同作業。  
以前はどこでも見られたこの行為。現在ではその名を変え、  
ボランティア活動としてその精神をいまに伝えています。

## 琵琶湖清掃作業

あの素晴らしい風景をもう一度

琵琶湖の東岸に位置する能登川町。湖面に接する距離は約2キロメートルとわずかですが、夏はヨットや水上バイクといったマリンスポーツ、冬には絶好のカメラスポットとして大変なにぎわいを見せ、休日などに訪れる人は年間数万人にもものぼると言われています。

しかしそのためでしょうか、年々、琵琶湖周辺にゴミが目立ちはじめ、その美しい風景も随分変化してしまったようです。

能登川町ではこのような現状を前に、琵琶湖の清掃作

業を行っています。

写真は清掃作業風景を写したのですが、この写真を見てもわかる通り、非常にたくさんのゴミが回収されます。そのため作業に参加した人たちからは「こんなにも汚れていたなんて……」「昔はあんなにきれいだったのに……」と、驚きの声が聞かれました。そして琵琶湖の現状を知り、「これ以上、琵琶湖を汚してはいけない」「もう一度、昔のようなきれいな姿を取り戻そう」と固く決心していました。

多くの魚をはぐくみ、私たちの暮らしに大きな恵みをもたらしてきた母なる湖「琵琶湖」。その姿を1日も早く取り戻し、未来へ引き継いでいくことがいまを生きる私たちに課せられた使命ではないでしょうか。



「どうしてこんなにゴミがあるのかしら？」

本当に…



もう…



イヤになっちゃう！



集められたゴミの山

「昔はこんなじゃなかったのに…」



きれいになった琵琶湖畔

# お宮掃除

浜之神社(乙女浜)の場合

お宮は神様を祀る神聖な場所として、昔から大切にされてきました。また、子どもたちにとっては絶好の遊び場でもあり、幼い頃、楽しい思い出をはぐくまれた方も多いでしょう。

しかし、このように馴染み深く、大切な場所を誰がきれいにしているのかを知っていますか？

実は、氏子と呼ばれる地域の人々がお宮の管理をしており、掃除などの世話をしているのです。

写真は、大字乙女浜の浜之神社の“お宮掃除”の様子ですが、浜之神社ではこのような“お宮掃除”を、春・秋のお祭り前、夏のお彼岸前、そして新年を迎える前といった年の節目ごとに行っています。

この“お宮掃除”。氏子の人たちの話では、ずっと昔から絶えることなく続けられているそうで、天候にも恵まれ、いままで不思議と大雨が降って延期になったことはないと言います。このことについて氏子の人たちは、「きっと神様のご利益に違いない。ありがたいことだ。」と言いながら、掃除に励んでいました。

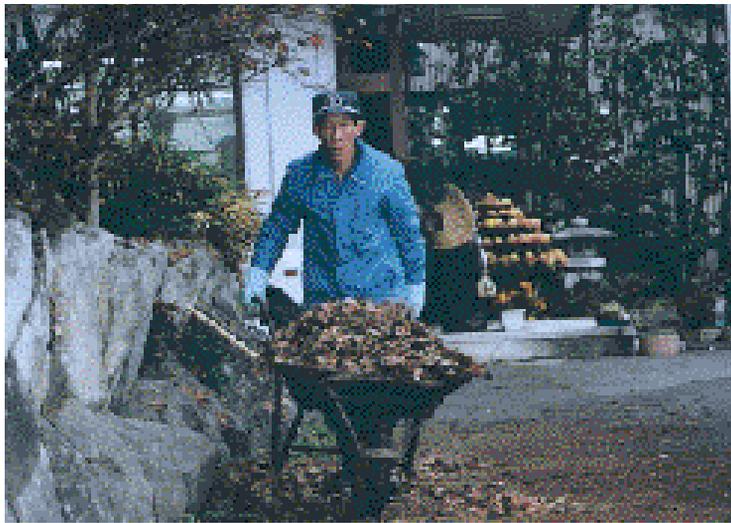
これからも、大雨などが降ることなく“お宮掃除”を続けて行ってほしいものです。



▲掃除前の浜之神社



▲ぞくぞくと掃除に集まる氏子さんたち



◀一輪車いっぱい集められた落ち葉



集めた落ち葉を燃やします



みなさん、ご苦労様でした